

随想 二題



SIGHTSEEING KOBE 4.
南京町

人と原風景

夏巳 ゆらこ

▲作家▼



わたしがモスクワを訪ねた88年初夏には、ペレストロイカという言葉はまだ耳新しかった。

旅行者は通過する町ごとにビザが必要で、開放都市は百以上あったが、明確な予定を決めなくては取得できず、滞在地ではインツェリスト(国営旅行社)が日程をはかり、前日の夕刻にならなければ明日のスケジュールはわからない、といった調子だった。

それでも旅に出たのは、そこが長年あこがれた芸術の宝庫であり、パリで客死した映画監督アンドレイ・タルコフスキーの生きた地だったからだ。

タルコフスキーは60年に処女作『ローラーとバイオリン』を発表、84年に国を去るまで僅か七本しか映画を撮れなかった。亡命後の86

年「サクリアフィイス」を完成し、同年54歳の若さで亡くなっている。わたしが訪れた町々には確かにタルコフスキーの映像世界に刻まれたロシア的風景が残っていた。

初夏の軽やかな緑ジャスマイン、浜茄子、芍薬と、映き乱れる色とりどりの花。自然の厳しさは植物の形貌に繊細さを与えるのか、木々の枝ひとつをとっても細やかに忍従の美しさがある。

白い雪に閉ざされる地に生きる人々の色彩感覚はアイコンの目映さだ。建物の外壁や内装の色遣いも華やぐものがあふれていた。

白樺林からのぞくロシア正教会トーポリの綿毛が漂うなか、幾つもの鐘が不思議な音階を奏でる。

行き交う人々の人種はさまざまで、皆、陽気で親切だった。ソヴィエトには笑顔がないなど、誰が言ったのだらう。子供たちは生き生きと瞳を輝かせ、極東から来たヤポンカを珍しそうに眺めていた。短い旅のあいだに嫌な思いをす

るところか、ロシア語の話せないわたしの代わりに観覧券を買ってくれた人々、帰路を折って幾度も十字を切ってくれた人々に、こころ暖まることは多かった。近頃の混乱ぶりを耳にする度、よい時に旅ができたつくづく思う。

タルコフスキーの作品でもっとも好きなのは「ローラーとバイオリン」である。ロシア外で制作された「ノスタルジア」と「サクリアフィイス」はよく知られているがわたしは饒舌すぎて好まない。

自由と幸福が相対した地で、自由を選んだ彼の言葉は、渴いている。芸術に従事する者にとって、不自由が、逆に精神的自由を生み出すという皮肉がある。人が故郷を失えば、理屈しか残らない。だが、原風景を捨てなければならなかった者の苦しみを理解することは容易ではない。



笑顔がかわいいモスクワの子供達

アモーレの旅

村上 和子

▲ジャーナリスト▼



「二度行かれませんか」。松宮隆男社長のさそいに甘え、モロゾフの「イタリア・中世愛の小径ツアー」の一行に加わった。

全国に先がけ、昭和11年からパレンタインデーのキャンペーンに取り組むモロゾフが、そのルーツでもある聖パレンチノ生誕の地を訪れようというものだ。

世界中の観光客を迎え、「陽気なイタリア」を弾ませているローマやミラノとちがいが、訪れたウンブリア地方はのどかで、私の頭の中にはなかった、静かな中世のイタリアがあった。

ピンク色の大理石でできた、小さな家並みの続くアッシジ。「桜色に輝く町」は、大きな教会が丘の上に建ち、ロザリオを下げた黒

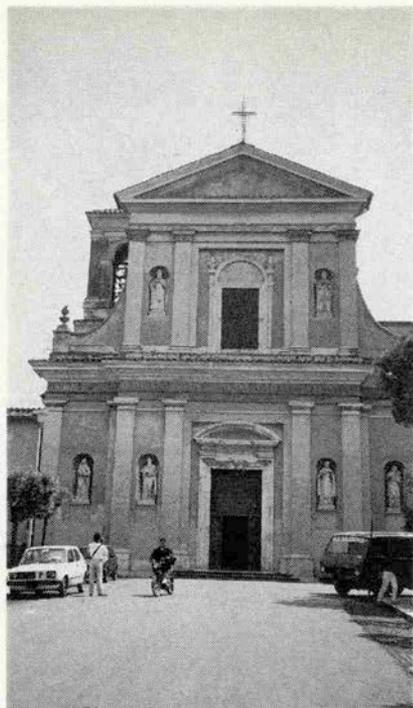
服の僧が、狭い石だたみを行きかっている。私たち以外に日本人の姿はほとんどない。

もちろんモロゾフが交流を深めている目的地のテルニも同様。ここでは市長を表敬訪問。名物旗ふりのパフオーマンズや、ヨーロッパの名滝の水しぶきの大歓迎を受け、食やアモーレ（愛）談義に花を咲かせ、素材ではにかみ屋の彼らと一緒に、マンジャール（食べること）とカンターレ（歌うこと）を心から楽しんだ。

ローマから北東にわずか90キロ。こんな素敵なところに日本人にあまり知られていない、「愛の街」があっただなんて。

2月14日のパレンタインデーには多くのカップルが訪れ、婚約式も取り行われる。

3世紀のはじめ、ローマ帝国では強兵策のために、兵士の結婚が禁止されていた。が、聖パレンチ司教はその結婚を取り行い（2月



テルニ市を見下ろす聖パレンチノ教会



ピエトロボーノ神父と筆者

14日）、帝王の怒りをもって殉死した（2月14日）。ヨーロッパではそんな彼を讃え、その日が春になり小鳥たちがはじめてつがう日、という民間信仰と結びつけ、4世紀ごろから「愛を育む日」のパレンタインデーが始まった。

この教会ではこの日、「今年中に結婚します」の誓いをたてたカップルを、神父が白い花束を贈って祝福をするのだそうだ。

そういえば、フランス東部のある地方で、この日に未婚の男女がクジ引きで相手を選び、どんなことがあっても一年間は付き合うという、今世紀まで続いたユニークな風俗があったそうだが、パレンタインの同義語に「フィアンセ」があったのも、そのためかもしれない。

ひっそり静まりかえったうす暗い聖堂後方に、モロゾフから贈られたというパイプオルガンが、ほのかな光を放っていたのが印象的
な、「アモーレの旅」となった。

△その143▽

美とやすらぎのひろしま美術館

—鎮魂から西欧と日本の

美のアップールへ—

嶋田 勝次 △神戸大学建築学科教授▽

全国各地でますますよい美術館が出来て、いろんなところへ旅をしても、豊かな気分に関しめる場があるのは嬉しい。

そのうちのひとつにここ広島の都心に当館がある。喧嘩な街の中ながら、周辺が官庁街だからか、人いさきれの中ではない。

昭和53年11月3日の開館というから、比較的早い時期につくられた美術館ということになる。

広島銀行の創業百年を記念して

ひろしま美術館

設立されたというこの美術館のリーフレットによれば、沿革として次の文章が簡潔に表わしている。

「昭和20年8月6日、あの原爆の劫火によって幾多の尊い命が失われ、街は一瞬にして廢墟と化しました。それから30数年、広島は平和文化都市の建設を目ざして、復興の道を歩んできましたが、その道程の中で久しく求められていたのは、心の喜びとやすらぎの場でした。

この美術館は、「美とやすらぎのために」をテーマに、構想10数年のもと、人々の希求に応える香り高い殿堂として誕生したのです。今日の広島の礎となられた原爆犠牲者の方々へ鎮魂の祈りと平和への願いがこめられています。」という明快さである。

建築自身も端正な形にまとめられている。玄関ホールの棟を抜けると、敷地の真中に円筒形の展示室が象徴的に配置され、東と西の回廊と奥の展示棟がまわりを囲む計画になっていて、それらが豊かな環境を感じさせている。

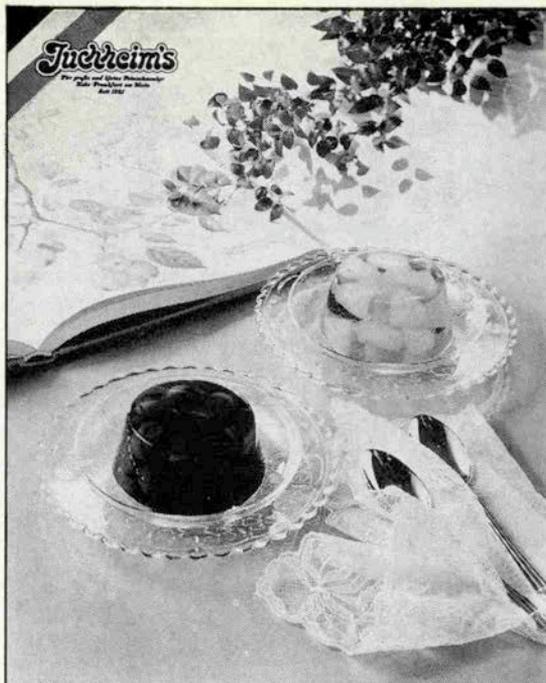
その中心をなす円筒形の展示空間の建築の外壁は、トラバーチン石貼り、それらを背景とする彫刻としてブルデルの「果実を持

つ裸婦」があるし、その室内中央にはマイヨールのビーナス像が鎮座している。その周りには四展示室が設けられており、第1室はドラクロア・コロ・クールベ・ミレー・マネ・ルノワール・ピサロなどのロマン派から印象派などの部屋になっている。第2室はスーラ・シニヤック・ゴッホ・ゴーギャン・セザンヌ・ロートレック・ルドン・ボナールなどの新印象派と後期印象派の部屋となっており、第3室はフォーヴィズムとピカソを中心として、マチス・ヴラマンク・ドラン・デュフィ・マルケ・ブラック・レジェなどの部屋となっている。更に第4室はエコール・ド・パリの展示室として、ローランサン・ユトリロ・モディリアニ・パスキン・フジタ・シヤガールなどの部屋となっている。

このようにここは西欧近代を概観させてくれる殿堂なのである。まだありたいのは、回廊の奥の別館の地階に日本近代から現代の美術品が展示されている。

この第5から第8までの展示室が、明治・大正から昭和の前期から後期までが、みごとに収集されているのがある。

その中で特に神戸で活躍されていた鴨居玲画伯の何点かの教会シリーズの絵画が展示されている。急逝される直前の画伯にお会いした時、何故教会をテーマとしているのかについて、「信仰をもたないものの希いです。」と言われた一言の重味が思い出されて来る。



Golden Interlude

ちよっとすてきな気分をあなたに

ひとときの輝き、インタリユード

インタリユードは間奏曲
洋菓子の歴史とともに歩んできたユーハイムが
あなたに贈る心なごむくらしの暮合い
ゴールデン インタリユード

ユーハイム



佐本
産科

ママといっしょに



赤ちゃん：丸山 ^{くれは}紅葉ちゃん（平成2年12月13日生）

マ マ：尚子さん

「父親に似て、心豊かな娘になるよう
願います。」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
☎575-1024(病室☎576-9639)
市バス上沢4停南スグ

ネコとネズミ

三枝 和子(作家)
え・元永 定正

最近、うちのネコたちに異変が起きた。ネズミを捕らなくなったのである。

もちろん、ネズミを捕らないネコの話はよく聞く。東京の銀座や新宿の飲屋街では、残りもので肥え太ったネズミたちにネコが恐れをなして逃げ廻っているという、ウソのようなホントの話だっであるのである。

しかし、うちのネコに限って言えば、つい一年くらい前までは、ちゃんとネズミをとっていたのである。三匹いるネコのなかで、いちばん狩のうまいメスネコにいたっては一晩に五匹も捕ったという記録がある。誇張ではない。うちは山寺なので雨が降る前など野ネズミが巣を移動するらしく、それを狙ってまめまめしく出かけて行くのである。五匹の記録は、私の妹が手伝いに来てくれたときのこと、このメスネコは大好きな私の妹の来山を喜んでベッドの上へ五匹のネズミを並べて歓迎したのであった。ネコがネズミを捕らない原因に、グルメの餌を与えるからという説がある。たしかにその一面はあると思うが、うちのネコたちは食べないけれども捕って来ていたのである。特に五匹並べのネコは一口も食べない。一緒に生まれたオスネコが、彼女の捕って来たネズミ

を、いつも横取りして食べてしまっていた。詰らなさそうな顔をして(ケイベツの表情だと妹は言うのだけれど)オスネコが彼女の捕って来たネズミを食べるのを横目に眺めながら、それでも、せつせと狩にいそしんでいたのである。

意気者のオスネコは別として、勤勉な狩人? だったはずのメスネコが急にネズミ捕りを放棄した理由が分らない。そこで、先ず過去において彼女に何を禁止したかを反省してみた。

子ネコの頃は蝶をとるのがうまかった。庭のつじの花の上へ二羽の揚羽蝶がもつれながらやって来る。それを飛びついて先ず一羽を口に、あと一羽を両前肢ではさむという離れ技をやっているのを目撃したことがある。これに味をしめて、(食べるわけではないから味をしめて、というのもおかしいが)今度は大きな雀蛾を半殺しにして座敷中を追い廻す。音をあげた妹が、「パタパタ、いけません。パタパタいけません」と言いかけました。すると、数回の失敗があったが、結局、ぶつり蝶も蛾も捕らなくなりました。

イヌにはこの種の禁止事項は可能だと思いが、まさかネコに狩本能を禁止することができると思っていなかったので、いささか驚いて、この話を

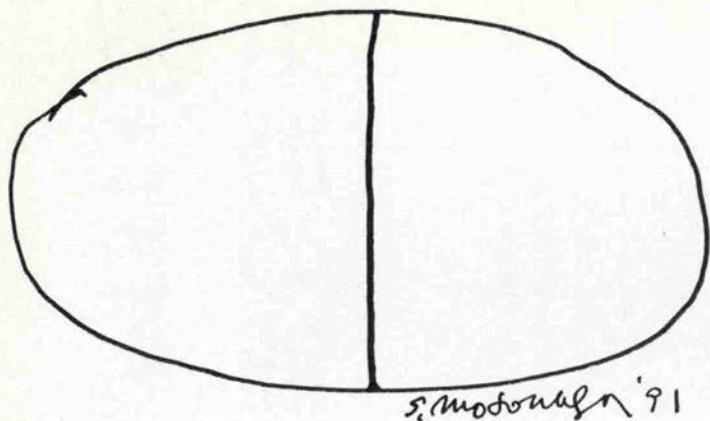
ネコ好きの友達にした。

「あ、利巧なネコは大丈夫よ」と友達は自分の経験話を話してくれた。友達は、放し飼いのセキセイインコとネコとの共存に成功したそうだ。

「ネコにね、お前はこのインコちゃんよりずっとえらいんだから、強いんだから、優しくね、って根気よく言いかけたの」

「へえっ。そんなことってあるんだ」

私は感嘆した。テレビで、頭にインコをとまらせて歩いているネコを見たことがあるが、あれはテレビで報道されるくらいだから、特別のネコ



だ、私の友達の飼っているようなフツウのネコに、そんなことできるはずないと思っていただけだ。そこで、うちで長年飼っているどのネコにもそれを禁止したことがない鳥を捕って来ることを、初めて禁止してみた。野鳥はネズミについてネコの狩本能をそそるらしいので、これまで咎めなかった。

考えた末、この行為はネコとしては悪い行為ではない、自然の行為なので、叱らず、殺してしまったものは丁寧に埋めてやり、生きているうちに発見すると、横から奪って、
「可哀そうだからね、可哀そうだからね」と言いきかせながら、放してやることにした。

放してやるとき、最初の二、三回は文句ぶうぶう（ネコにぶうぶうはおかしいけれど、啼きかたで分るのである）言っていたが、最近では放し終るまで心配そうについて来る。

ネズミを捕らなくなった原因と言えればこれくらいしか考えられないが、しかし、三匹もネコのいる家で、ネズミがチョロチョロし、ネコはと言えれば、ネズミの逃げこんだ隙間を面白そうに覗きこんでいるだけ、というのは確かに珍現象である。もっとも、この珍現象、うちのネコたちに絶大の信頼を得ている妹によれば、

「あの子たち、『山でら読書会』読んでるのところがう」と言うことになる。

「山でら読書会」というのはネコたちの飼主である、この家の主人森川達也が毎月一回、神戸新聞に連載している仏典に関するエッセイで、そこには生きとし生けるものの共存の理念が分りやすく書かれているのだけれど、マサカア!!

■'91須磨薪能によせて

波ここもとや

信太 周

〈神戸大学教授〉

須磨の浦

貞享五年（一六八八）旧曆四月——今でいう五月二十日ごろ、俳人松尾芭蕉は上方の名所旧跡歴遊の果てに須磨・明石を訪れ、須磨に一泊した。その折の紀行『笈の小文』の末尾、八かかる所の秋なりけりとかや▽など『源氏物語』須磨の巻の一節を引いて光源氏の侘び住まいに思いを馳せながら、在原行平の故事を偲び、源平古戦場一の谷を眼下に平家滅亡のさまを追憶するくだり、須磨を描いて屈指の紀行として名高い。

『源氏物語』に描き尽されているように悲しき、寂しき——須磨の浦の真の趣は秋に極まるということであろうか、芭蕉はこの季に行き合わせなかったことを残念がっている。しかし、この時芭蕉の訪れた須磨の古塚〔敦盛塚〕〔松風村雨堂〕はともに須磨の本意にふさわしい哀愁の感漂う伝承を背景にしたものであった。

『古今集』所収の行平の和歌二首を主材に、流滴の行平の思ひ人、須磨の潮汲み女松風村雨姉妹

を配する謡曲「松風」。姉妹の古跡を訪れた旅僧の夢に姉妹の亡霊が現われ、行平思慕の思いのたけを語る。流滴三年にして都への帰還がなかった行平形見の装束をまとい、恋の妄執のままに舞い狂う姉妹、そして夜明けとともに後世回向を頼んで失せたという。須磨には今も小さな松風村雨堂（観音堂）が伝わり、このあたり行平・松風・村雨・衣掛・稲葉など「松風」ゆかりの町名が残る。また、謡曲「敦盛」は『平家物語』巻九「敦盛最期」が本説で、一の谷合戦で平敦盛を討った熊谷直実が出家して蓮生法師と名を改め、敦盛供養のために再び一の谷に赴く場面から始まる。切迫した戦場のこと、我が子と同じ年恰好の敦盛を討たねばならなかった直実。敦盛は最後まで名乗らず、死後、携えていた笛により敦盛その人と判明したという。ここでも蓮生の旅寝の夢に敦盛の亡霊が現われ、合戦前夜の管絃の遊びのさまや合戦の顛末を語った後、後世菩提を弔ってくれるよう

頼む。「松風」同様、登場人物の鎮魂がはかられていると言えよう。

一の谷合戦の故地とされる須磨浦公園西端の大きな石塔は敦盛塚と称され、合戦ゆかりの二月七日には須磨寺管長等の読経の後、須磨琴の演奏もあり、多くの人々が参集して平敦盛・源平戦士追悼法要が営まれている。

もちろん、これら謡曲「松風」「敦盛」や『平家物語』の伝える挿話の全てを事実談と割り切るわけにはいくまい。ただ、芭蕉は、一の谷北にある鉄拐山から後方多井畑を望んで松風村雨の故郷と偲び、敦盛遺愛の笛を寺宝とする須磨寺を尋ねて、△須磨寺やふかぬ笛きく木下やみ▽の句を詠



須磨海岸にて。故洪井義信。

んでいる。芭蕉をして実説と錯覚させてやまない哀話であったということであろうか。

須磨寺境内には敦盛首塚、そして芭蕉句碑が建つ。詩心なき者としておおけないことではあるが、古人の感動の一端に連なりたい思いで、この句碑を前に、ふと、△浦風運ぶ松蟬の声▽と唱和してみた。

標題△波ここともや須磨の浦▽は、波がすぐそばまで打ち寄せてくるような気がする須磨の浦よの意で、『源氏物語』に始まり、謡曲「松風」「敦盛」にも取り込まれている表現。須磨の浦を表わすのに最もふさわしい表現と意識されていたのであろう。阪神間に残された唯一の海水浴場として若人の避暑地ともてはやされ、須磨ビーチの名がふさわしい場所に変貌してしまっただが、△波ここともや▽では昔に変わるところはない。須磨ゆかりの「敦盛」「松風」の薪能上演の試み、——敦盛や松風村雨姉妹の亡霊の久方ぶりの感応もあらうかと楽しみみである。

▽須磨薪能（主催・須磨薪能実行委員会事務局）は、8月29日（木）午後6時より須磨海浜公園で開かれます。

なお、チケットは、

① 8月10日～28日 須磨海浜水族園事務所

☎ 73117301

② 8月29日（当日）薪能会場受付
でお求め下さい。

お問い合わせは、同事務局 ☎ 222-1128
5まで。

■特集 神戸のウォーターフロント

文化レベルの高い快適な街 アーバンリゾート都市神戸を

笹山 幸俊 〈神戸市長〉



笹山幸俊市長

平成三年度の神戸市の予算は「調和のとれた都市環境をめざして」ということを基本目標として編成されていますが、その根本には、これからは都市環境をよくすることが大切であるという考えがあります。なぜ都市環境であるのかというと、これまでの街づくりの基準であった生活環境基準は、生活をしていく上で必要な施設を、数や容量の面で充実させていくという役割を果たしてきたわけですが、それだけでは物足りないのではないかと、例えば樹木を植えるにしても単に数が多いということが良いとは限りません。樹木や公園が今後、数や広さだけ

でなく、使い方に合った質の高いものにしていく必要がある、そういう観点から都市の環境を考えなければならぬのではないかと思うからです。

そこで都市環境基準というものを今回つくりました。神戸は「国際港湾都市」、「人間環境都市」あるいは、「ファッション都市」、「コンベンション都市」、「スポーツ都市」など、いろんな形で都市の名前といますか目指すべき都市像を表現してきましたが、これからは、これらのひとつひとつにプラス、アルファを加えていけばいいのですが、量だけでは物足りない、質の高いものにして、また衣食住だけでなく「遊」が必要な時代にあって生活面だけでなく、福祉、教育、文化なども「環境」に含めて考えることで都市環境基準を基本としてそれらを調和のとれた形で実現していく目標として「調和のとれた都市環境をつくる」そういう街を「アーバンリゾート都市」という表現で、都市像として掲げたわけです。

都市環境というものの中には、ハードの面からソフトの面まで、全部含まれています。これを達成することはなかなかむづかしい点もあると思います。なぜかといいますと、時代、時代で世界情勢も変われば、政治や経済の動きもそれによって変化します。市民の皆様方の考え

方も変わります。ですから、都市環境といったものの内容も途中でチェックする必要があります。それで、アーバンリゾート都市づくりの進捗状況をチェックし、その後の都市環境づくりの新たな出発点とするために、平成五年に「アーバンリゾートフェア神戸⁹³」を開催しようと思えます。街の構造をどのようにして決めるのかというところで言えば、基本的には市民の皆さん方が生活しやすいこと、安定した生活ができるということです。

その為には働く場所、教育、あるいは、文化といったものを市民の方が享受し、また、いろいろな選択ができる街でないといけません。そして市民の方が「神戸の街はいい街ですよ」と言えるような街であってほしいのです。幸運にも、神戸のような海、山、田園地帯といった地形を持った大都市はなかなかないので、ある意味では、神戸が一番そのような街の素質をもっているといえるでしょう。そこで、過去にそういう街があったのかというと、井上靖の小説「孔子」の中に「近きものが喜び、遠きものが来る」というのがありましたが、これがアーバンリゾート都市の理念と言えるのかもしれませんが。孔子の時代にはそういう街があっても、現在なぜなくなったのかというと、一般的に戦争、天変地異、食料問題、あるいは人口増により、廃棄物が環境容量をオーバーする問題などがあったものと思えます。ですから、様々な要因で街は変わるということを前提に知恵を出すことが、これからの街づくりに求められると思えます。

現在では、船も飛行機もありますし、情報通信手段も発達している中でどのようにして街ができるのか、衰退していくのかという問題があります。天変地異や疾病、あるいは地球全体の環境の問題、技術開発の問題など、これは神戸だけでなく、関西、日本、世界と、それぞれの地域の問題でもあります。これらができるだけコントロールして地域における神戸の果たすべき役割をレベルアップしていきたい、またどんな状態でももちこたえられる街づくりをしていきたいと考えています。そのた

めには、財政力も強くなければいけませんし、行政力も求められることとなります。

先程、天変地異の話をしました。六甲山にしても、地震は少ないといわれていますが、雨が降れば表層が流れるなど地形的には決してよくないということがあります。従って人工的に、技術を駆使して対処することが必要であって、自然のまま放っておくことがよいということではない訳です。震災の噴火にしても、やるべきことがあったのではないかとこの反省論が出てくると思えます。ほとんどの人は、そんなことはないと思つてたことが実際に起こっているわけです。ですから道路ひとつみても、なぜここに道路や水路ができたのだろうか、こういうことは、過去にいろいろなことがあって、その当時の人々が考えてつくつていたわけですから、そういう歴史なり理由を考えずに安易に動いてもだめな訳です。

そういうことについて、市民の皆様の理解を得ながら災害にも強く、アメニティーを享受できる快適な街、文化のレベルも高い、また訪れる人も多く商業もコンベンションも盛んな街をいろんなプロジェクトをうまく進めながら形づくっていきたいと考えています。現在ある主なプロジェクトは今後10年位で格好がついてくると思えますが、その後も、いろんな問題に対応できる基盤を今のうちに作っておく必要があります。そのためには、様々な仕事がありますが、要は、21世紀の次の世代に向けて、その時代の人達が自分達の街をつくっていくための素地を今から作っておいたらどうかということ、アーバンリゾート都市」という都市像を掲げた訳です。

平成5年をそのための出発点とするため、アーバンリゾートフェア神戸⁹³を開催いたしますが、これは神戸市だけで行なえるものでなく、市民の皆様や企業の方々と一緒になってこそ実現できるものです。どうか、先程から申しあげたような街、アーバンリゾート都市を作っていくことについて充分御理解いただいて、ぜひとも御協力をお願いしたいと思います。

■特集 神戸のウォーターフロント

アーバンリゾート都市

海の夜明け、山の黄昏、街の24時間 いま、新たな胎動が始まる

下村 繁弘 (神戸市企画調整局アーバンリゾート都市推進室長)



都市基盤・環境・住民サービスなど、人々が住み続けるところとして、常に優れた都市環境づくりをめざす街。



働くことがファッションブル。いきいきと仕事自体を楽しめる街。

赤ちゃんからお年寄まで、誰でもやさしく受け入れてくれる包容力のある街。

神戸はこれまでファッション都市やコンベンション都市、あるいはスポーツ都市などその時々に応じたテーマを設定し、新たなまちづくりをすすめてきた。これらを継承し、さらに発展させて、21世紀に向けて市民一人ひとりが「やさしさ」と「ぬくもり」を実感し、より快適で充実した生活がおくれるよう、活力と魅力あふれたまちを作りあげていきたい。この神戸の長期的な目標である都市像が「アーバンリゾート都市」である。

海や山など、めぐまれた自然環境や国際性といった都市資源、そして様々な地域特性を大切にしながら、神戸独自の都市個性によってこのまちを人、もの、情報の交流する「場」にしていきたい。都市の魅力がにぎわいであるとともに、うるおいのある快適な都市環境であるとすれば、「アーバンリゾート都市」はまさに神戸の都市魅力を表現する用語であるといえる。

神戸市では、平成3年度より「都市環境基準」を策定した。これは従来の「生活環境基準(シビ

古き良き街の魅力の創造と 新しい街の息吹の出会い。



文化・歴史・芸術・スポーツ・アミューズメント
など、多様な都市ライフスタイルを選択し、楽しむことのできる街。快適な都市生活を充足させ、
来訪者が2〜3日滞在したくなる街。



ここにファッションのおしゃれ。
ちょっとすまして歩く緊張感がたの
しいおしゃれ感覚の街。



人と人が出会い、すてきなネットワークを広げていく。
仕事でも私生活でも、そんな出会いをつくる街。



1日24時間、多様なコミュニケーションが成立し、
人々のさまざまな営みを可能にする街。

ルミニマム」をさらに発展させて、福祉や文化、
スポーツ等も含め、市民がより快適で充実した都
市生活を送るための基準であり、アーバンリゾー
ト都市推進の基礎となるものである。

平成5年は、この「都市環境基準」5カ年計画
の中間年度にあたるが、ハーバーランドや六甲ア
일랜드が完成し、神戸にまた新しく、人々が集
い交流する場が生れる。これをアーバンリゾー
ト都市推進の契機として、ウォーターフロントをは
じめ、市内一円を会場として「アーバンリゾー
トフェア神戸'93」を開催しようとするものである。

このフェアは93年時点の神戸のまちを、多くの
人々に体験していただく、あるいは実際に使いこ
なしていただき、そのうえでご意見、ご提案をい
ただきながら、市民、事業者、市が一体となった
息の長いまちづくりにつなげていこうとするもの
である。

住み続けたいまち、訪れてみたいまち、住んで
みたいまち神戸。神戸の都市個性を主張しようと
するこの例のないフェアの主役は、そこで住み、
働き、学び、憩う人間である。多くの「神戸っ
子」の積極的なご提案、参加をお願いしたい。

■特集 神戸のウォーターフロント

旧居留地・メリケンパーク

旧居留地のまちづくりから ウォーターフロントへ向けて

武田 則明 (建築家)



▲リブ・ラブ・ウエスト
昭和4年に、ナショナルシティバンク神戸支店として建てられた、この風格ある建物も、今では洋服、輸入雑貨のお店が入り、若者であふれかえっている。



▲BLOCK 30
夜には電飾で美しく演出される建物の一つ。仕事帰りの人々の目を楽しませてくれる。BLOCK 30 とは、ここが昔の居留地30番であることを意味している。

旧居留地には戦前から40数社で組織された国際地区共助会があった。年に数回カレーライス等を食べながらの親睦会であった。(佐久間泰夫氏談)

この地区が都市景観形成地域に一九八三年六月に指定された時の地元側の窓口であった。地域指定された時に国際地区共助会は旧居留地連絡協議会となった。同年東京銀行神戸支店が神戸市立博物館としてオープンした。これまで海運、貿易、通関、保険、金融に特化した旧居留地もビジネスマン以外の人が博物館はどこにあるのですかと、うろろろする様になった。しかし事務所ビルには空室が目立ち、駐車場やテニスコートの空地が多く、落付きはあるが活気の少ないまちであった。港の取扱量は増加しているがコンテナ化による港湾の合理化によって、働く人口が減っていたからである。こうした時に大興ビルがNHKに放映された。それはこのビルのテナントがこれまでの企業ではなく、デザイン事務所、カメラスタジオ、編集企画、カメラマン、イラストレーター、古着



商船三井ビル▶
アメリカン・ルネッサ
ンス様式を基調とした
重厚な中にも、船舶を
思わせる優美な装飾。
船会社にふさわしいデ
ザインである。
大正11年築。



◀メリケンパークのシンボル海洋博物館
1987年にオープンした、海洋専門の博物館。ユニークな
スペースプレームは、波と船の帆を形どっている。夏の
花火大会では16万m²のメリケンパークが文字通り、人
々で埋まるが二階にあるレストランで見るのも一興。

店、仏料理店が出店しユニークな存在であったか
らだろう。一方くつろぎのタウンロード計画、歩
道整備、電柱撤却等、公共整備が進んだ。開港一
二〇年を祝ってメリケンパークに海洋博物館が一
九八七年にオープンし、大丸南一号館(ナシヨナ
ルシテイ・バンクオブ・ニューヨーク)がリブラ
ブウエストとしてオープンするとこれまで大丸神
戸店の北側で止っていた人の流れが南へ動きにわ
かに活気を呈して来た。次いで大丸駐車場は殺風
景であったが、ブロック30として高級洋装店とレ
ストランがずらりと並び一九九一年大興ビルにポ
ロ・ラルフローレンとリスボアが、オリエンタル
ホテルの北にアルマーニがオープンし、高級ショ
ッピング街が形成された。行政の街路整備だけで
はなく、まちづくりに合った企業の積極的な店舗
展開があって現状になったのだろう。これは旧居
留地連絡協議会が自らの意志でまちづくり計画を
つくり実行していることを忘れてはならない。プ
ロムナードコンサートやクリスマスキャロル、シ
ンボジューム等市民に開放して開催している。企
業エゴ、地域エゴでは決して良いまちは出来上ら
ない。おそらく企業が系列とか商売を越えて、ポ
ランティアで地域に根ざしまちづくりの活動をし
ている地域は日本広しといえども旧居留地だけだ
ろう。行政だけではなく、企業が動き市民が参加
して真の文化都市が出来るのだと思う。この意味
で港湾は国や市だけで計画を進めることは容易だ
ろうが大味でピリッとしたきめの細かいサービ
スに欠ける。もっと民間の知恵やオシャレなセン
スやノーハウを導入して推進することが市民に開か
れた港づくりにつながると考えている。

■特集 神戸のウォーターフロント

ポートアイランドⅡ期

拡張が進む21世紀への 新しい海の文化都市

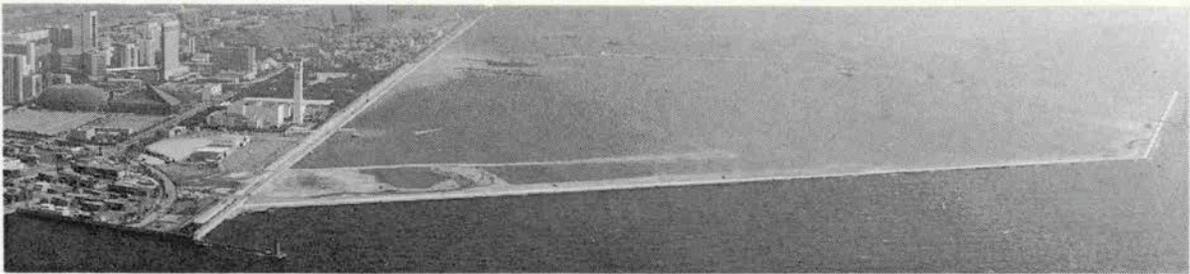
「新しい海の文化都市」として誕生した人工島
Ⅱポートアイランド(四三六畝)の南側に、現在、
第二期工事が進んでいる。

埋立て総面積は、三九〇畝。昭和六十一年十二月に東半分の埋立て免許を取得、同六十三年二月に西半分の埋立てが認可され、今年五月末で、予定埋立て土量の35・8割(三二九〇万立方尺)が終了している。

ポートアイランド第二期地区は、平成八年完成の予定だが、これによって、神戸港のマザーポート機能が強化され、国際交流機能、ファッション業務機能、航空旅客施設(KI-CAT)などを有する新たな海上都市が生まれることになる。

事業計画では、大型コンテナバース、トランプバース、内航フィーダーバース、神戸シティ・エア・ターミナル(KI-CAT)のある港湾機能ゾーン、大規模なコンベンション機能が整備される国際交流ゾーン、現在のファッションタウンの機能をさらに拡大するファッション業務ゾーン、



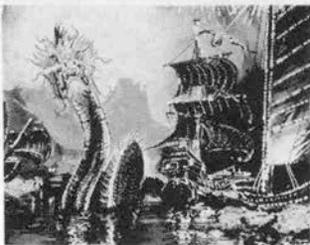


現在、ポートアイランドの第二期工事が進んでいる(写真上)。

土地利用計画としては、港灣物流機能用地が最も広いが(全体の27・2%)、緑地・スポーツ・レクリエーションゾーンに全体の20%(78ヘクタール)を当てている。

このエリアの「目玉」が神戸レジャーワールドだ。その全体構想は、右ページの写真のようになる。様々な仕掛けが考えられているが夜ともなれば、パークの海では、華麗な光のページェントが繰り広げられる(写真左)。

一方、ファッションタウンに連動するものとして、15ヘクタールがファッション関連業務用地に予定されている。この土地利用とし



ては、グインターナショナル・デザインシティ構想が民間から提案されるなど、東側の六甲アイランドに建設中の神戸ファッションマートをもにらみながら、今後プランが煮詰められて行くと思われる。

埠頭用地内に、内航フェリーターミナルに隣接して建設される神戸航空旅客ターミナル(KI-CAT)は、関西国際空港への海上アクセスにおける内外旅客者の基地となる。三四〇台収容の駐車場や宿泊施設なども予定されている。

需要予測としては、開港時(平成五年の予定)に一日当たり七千〜一万人、平成十二年頃には、八千〜一万二千人が見込まれている。

そして都市再開発、緑地、スポーツ、レクリエーションなどのゾーンが予定されている。

ポートアイランド第二期の「目玉」は、関西初のテーマパーク「神戸レジャーワールド」。

その基本コンセプトは「ときを超えた世界の旅——光り輝いた時代の体験」で、愛称は「マジカルジャーニー」。人類の歴史の中で、素晴らしい輝きを投げかけた都市とその時代へタイムスリップが出来る。それは、例えば、二世紀のローマ、八世紀の長安、ビクトリア王朝時代のロンドン、ベルエポックのパリ、ゴールドラッシュ時代のサンフランシスコ、中世のイスタンブールなど十都市。

園内の広さは、東京ディズニーランド(五十七畝)にほぼ匹敵する約五十畝。中央部に人工の海を設け、二つの島から十の都市が放射状につながっている。時空を超えた「異文化体験」の他、食事やショッピングが楽しめるのも売り物の一つ。とくに夜間も営業し、酒類もあるので大人も楽しめるそうだ。平成九年春に完成の予定。

また、神戸航空旅客ターミナル(KI-CAT)は、関西国際空港へのアクセスとして設けられる。陸上ルートでは七十キロを要するが、これが完成すると海上三十キロの直線距離で結ばれ、所要時間が大幅に短縮される一方、陸上の道路交通渋滞時の補完機能の役割をも果たすことが期待されている。用地面積四・九畝、平成五年完成の予定。

このようにポートアイランドは、現在のほぼ二倍の面積に拡大されるが、東の六甲アイランド、さらに南に予定される神戸空港との密接な連絡体系が整備され、二十一世紀の一大「海上都市群」としての発展が期待されている。